

日本経済新聞社編「三度目の奇跡、日本復活への道」2011年5月16日刊を読む

日本の人材を変える3つの要素

1. 「企業の多くは日本の大学教育を信用していない」。11年2月に中央教育審議会の委員になった日本IBM最高顧問の北城恪太郎(66)はこう指摘する。

北城の主張は明快だ。

「教育を巡る国内の議論は『学力低下をどうするか』『引きこもりやいじめをどうするか』といった個別の問題に関するものばかりで、『どんな人財を育てるべきか』という本質論が聞こえてこない。今の日本は国の総力を挙げて人材育成について考える時期に来ている」

2. そんな教育を続けてきたことが、今のリーダー不在を生んだともいえる。

「(1997年に就任した)英国のブレア首相(当時)は『教育、教育、教育』とスローガンを掲げて教育改革に取り組んだ。どこの国でも人材育成の重要性が叫ばれている。日本も明治時代には海外から講師を招き、日本人を留学させて人材を育てた。戦後も欧米に追いつけ追い越せで必死に学んだ。今は社会が全体的に豊かなになったため、若者のハングリー精神はなくなってきている。そうした時代に従来型の教育では機能しない」

3. この難局を乗り越えるために、企業はいま、どんな人材を求めているのか。

「求められる人材の要素は3つある。まずはイノベーション(技術革新)を起こせる人。それは科学技術だけでなく、商品開発でも行政サービスでもいい。次に自分の意見を持ちクリティカル・シンキング(批判的思考)ができる人、そして革新を起こしてリーダーになれる人だ。つまり創造的な人材が求められているということだ」

4. 「もう一つ、大切なのは倫理観を持つこと。思いやりや公共心を持ち、不正をしない人を育てなくてはならない。そのためには哲学や文学、歴史を学ばせて、判断力を育てる必要がある。ところが今の大学は教養教育が隅に追いやられ、専門教育に走っている。人格形成の基盤となる教養教育を見直すべきだ」

5. 以前から指摘されてきたことだが、高校生の段階で理系と文系を分ける日本の教育には大きな欠陥がある。歴史や哲学を学ばない理系の人材は自分たちが生み出す技術が社会や歴史にどんな影響を及ぼすか、という洞察に欠ける。福島第1原発の事故でここまでの状況を招きつつ、なお「安全」と繰り返す原子力専門家たちの言葉には、まったく力がない。理系の知識が乏しい文系のリーダーは、技術者たちが繰り出す専門用語の煙に巻かれ、状況の本質が見抜けない。

6. 2000 年ごろ、ルノーの傘下に入った日産の技術者は当時のルノー会長、シュバイツァーの専門知識の高さに舌を巻いた。元官僚のシュバイツァーは日本でいえば文系だが、現場顔負けの鋭い質問で日産の技術者を慌てさせた。

7. 理系出身で「原子力に強い」と自負するわが国の首相は、中途半端な指示で現場を混乱に陥れ、原発事故ではフランスや米国の企業や専門家に支援を仰ぐ。

8. 北城は、日本の教育がリーダーを生み出せない原因の一つに「入試」があると言う。

「まず大学の入学試験。日本の入試では与えられた問題を早く正確に解ける人が優秀とされる。今の時代は正解のない問題に、自分で答えを考え出す力が必要だ。有名大学の合格率が評価につながる高校では、大学受験に合わせた教育をせざるをえない。大学入試が変われば高校以下の教育も変わっていく」

9. 「例えば、大学入試に英語能力テスト『TOEIC』を導入してみてもどうか。そうすれば高校では英語のリスニングをもっと重視するようになる。入試で面接やディスカッションの比重を高め、人物全体を見ることも大切だ。今の入試は筆記中心の単線的な物差しだが、これをもっと複線的にしていくべきだ」

10. 「大学までの学校教育が育てる人材と、企業が求める人材にミスマッチが起こっている。1980年代までは企業も受け身で知識を吸収できるタイプの人材を求めたが、今はそれではやっていけない。世界の財界人のジョークで『国際会議を成功させるには(しゃべりすぎる)インド人を静かにさせ、(おとなしすぎる)日本人に発言させる』というものがある。それほど日本人は積極性がないと思われている。中国 IBM や韓国 IMB の社員は日本 IBM の社員より英語がうまく、目もギラギラしていて積極性がある。日本 IBM に入ってくる若手は優秀だが、中国や韓国に比べると受け身のようだ」

11. 「今の企業は採用の段階で、大学時代の成績よりもやる気や人物を重視する。日本の大学で成績の良い人が、必ずしも仕事ができる人ではない、ということを経験で分かっているからだ。多くの企業は大学教育を信用していないとも言える。産業界もこういう人材が欲しいと大学や教育界にどんどん発信していかないといけない」

12. リーダー不在が露呈したいま、北城たち企業人の危機感はかつてないほどに強い。

P172 ~ 175

[コメント]

日本復活の道は人材育成にある。企業や社会が求める人材とは何か。その 1 つの考えが北条氏によって示されている。参考にしたい。

